

2012年8月8日(水)～10月22日(月) 国立新美術館 企画展示室2E
 休館：毎週火曜日 開館時間：10:00-18:00(金曜日は10:00-20:00) 主催：国立新美術館、読売新聞社



辰野登恵子 《Red Line・Blue Line》2004年
 油彩／カンヴァス 218.2 x 291.0 cm、国立国際美術館蔵



柴田敏雄 《埼玉県秩父市》2007年、Type-Cプリント
 80.0 x 100.0 cm、東京国立近代美術館蔵

企画概要

辰野登恵子(1950生)は、現代日本を代表する抽象画家として、高い評価を受けている。その展開は、方眼紙をシルクスクリーン製版し、部分的に塗り消して重ね刷りしていく70年代のモノタイプ作品から、ストロークによるイメージの生成を定着した画面を経て、1990年代以降の鮮やかな色彩と物理的な存在感に満ちた形象を特徴とする絵画へと展開している。一方、柴田敏雄(1949生)は、留学先のベルギーにおいて1970年代半ば頃から写真による制作を開始し、山野に見出される大規模な土木事業を重厚なモノクローム写真に定着した「日本典型」連作などによって国際的に高い評価を受けた。人工物と自然が共存する景観を切り取り、強固な造形性を実現する作品は、近年ではカラー写真に媒体を写すことにより、新たな魅力を獲得している。この展覧会は、絵画と写真という異なったジャンルにおいて活動する二人の作品を対比しつつ、イメージと作品の生成のメカニズムを探ろうとするものである。

東京藝術大学油画科の同級生であった辰野と柴田は、同大学および大学院在学中に、やはり同級生の鎌谷伸一とともにグループ、コスモス・ファクトリーを結成、アメリカのポップ・アーティスト、アンディ・ウォーホル等によって美術に導入された写真製版によるシルクスクリーンをいち早く日本で実践し、グループ展などの活動を行った。だがその後、辰野は絵画、柴田は写真と、それぞれ異なった活動領域に専念していくことになったため、両者の共同活動は、1995年に東京のある画廊で行った二人展を数えるのみである。とはいえ、二人の芸術の生成には、見過ごしにすることのできない共通点があるように思われる。それは、所与の形象から出発し、自律性を持った作品を生み出していることである。

辰野においては、壁のタイルや鉄製の階段に見出された装飾パターン、積み重ねられた箱や、はてはミニスカートから覗く膝まで、偶発的に見出された形象がモチーフとして選ばれ、そこから豊かな色彩と形態感覚を特徴とする情感に満ちた抽象絵画が生み出されている。一方の柴田にあっては、山奥に点在するダムや治水事業などの大規模な土木工事の、人工的で時に幾何学的な形象が、自然の植生や山塊の形象と組み合わせられ、たくまざる造形美が生まれる光景が、巧みに抽出され、隅々まで緊張感のみなざる画面として定着されている。二人の作品においては、この世界の中に偶発的に見出された、それ自体としてはとくに深い意味を持たない平凡なモチーフから採られた形象が、純度の高い抽象的な造形へと昇華されているのである。

展覧会では、1970年代のコスモス・ファクトリー時代から現在に至る、二人の作品の中から、代表的な作品やシリーズを精選し、基本的にはそれぞれの作家の特質を明らかにしながら、時折は両者の作品を併置し、ポップ・アートとミニマル・アートの影響を受けて自己を形成した最初の世代が、質の高い独自の芸術を作り上げていった様を紹介する。

出品作品

辰野登恵子：絵画・版画・素描等 約100点

柴田敏雄：写真・版画等 約200点

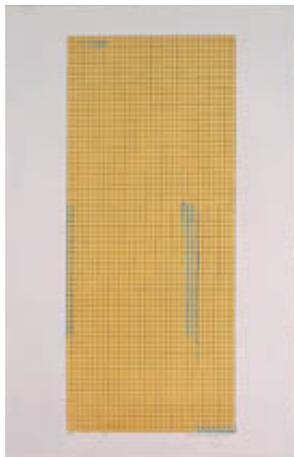
報道関係のお問い合わせ

国立新美術館広報担当 石松、窪田、桐生 TEL:03-6812-9925 FAX:03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp

「与えられた形象—辰野登恵子／柴田敏雄」展 広報用画像データ一覧

展覧会広報用として画像をご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申し込みください。(メールで直接お申し込みいただくことも可能です。)

TATSUNO Toeko



辰野登恵子

T1

辰野登恵子
《UNTITLED-27》
1974年
シルクスクリーン／紙
107.0×70.0 cm
千葉市美術館蔵



T2

辰野登恵子
《WORK 84-P-1》
1984年
油彩／カンヴァス
194.0×130.0 cm
東京国立近代美術館蔵



T3

辰野登恵子
《UNTITLED 90-14》
1990年
アクリリック／カンヴァス
218.0×291.0 cm
東京都現代美術館蔵
撮影：御澤徹



T4

辰野登恵子
《UNTITLED 95-1》
1995年
油彩／カンヴァス
291.0×238.0 cm
愛知県美術館
撮影：成田弘



T5

辰野登恵子
《UNTITLED 96-3》
1996年
油彩／カンヴァス
227.0×182.0 cm
横浜美術館蔵
撮影：内田芳孝



T6

辰野登恵子
《Red Line・Blue Line》
2004年、油彩／カンヴァス
218.2×291.0 cm
国立国際美術館蔵



T7

辰野登恵子
《ばらいろの前方 後方》
2011年
油彩／カンヴァス
248.5×333.3 cm、作家蔵
撮影：岡野圭



柴田敏雄

S1

柴田敏雄
《福島県相馬郡鹿島町》
1990年
ゼラチン・シルバー・プリント
114.3×91.4 cm
東京都写真美術館蔵



S2

柴田敏雄
《群馬県北群馬郡小野上村》
1994年
ゼラチン・シルバー・プリント
81.3×101.6 cm
個人蔵



S3

柴田敏雄
《神奈川県愛甲郡清川村》
1996年
ゼラチン・シルバー・プリント
100.0×125.0 cm
作家協力



S4

柴田敏雄
《埼玉県飯能市》
2006年
Type-Cプリント
100.0×125.0 cm
作家協力



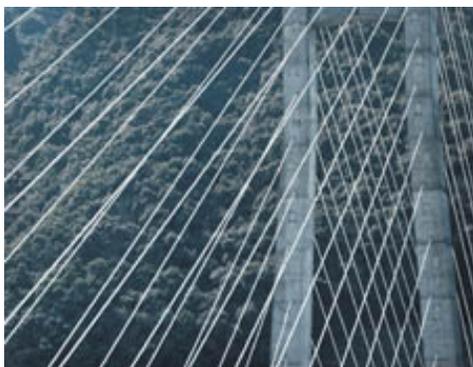
S5

柴田敏雄
《高知県土佐郡大川村》
2007年
Type-Cプリント
100.0×125.0 cm
東京都写真美術館蔵



S6

柴田敏雄
《埼玉県秩父市》
2007年
Type-Cプリント
80.0×100.0 cm
東京国立近代美術館蔵



S7

柴田敏雄
《高知県四万十市》
2012年
Type-Cプリント
50.8×61.0 cm
作家蔵

「与えられた形象—辰野登恵子／柴田敏雄」

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

国立新美術館 広報担当 行 FAX: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp

◆画像データ申込み(ご希望のデータの番号にチェックをつけてください)

T1 T2 T3 T4 T5 T6 T7

S1 S2 S3 S4 S5 S6 S7

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

TEL:

FAX:

E-mail:

画像到着希望日: 月 日 時ごろまでに送付

掲載/放送予定日(コーナー名):

◆プレゼント用招待券申込み(ご希望の場合はチェックをつけてください)

10組 20枚を希望します。

*発送は 7月中旬を予定しております。チケット発送先となるご住所をご記入ください。

〒

◎写真ご使用に際してのお願い

*作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

*写真掲載にあたっては、[記載クレジット]全文を表記してください。

*トリミングおよび文字のせはできませんのでご了承ください。

*基本情報確認のためゲラ刷・原稿の段階で下記の広報担当までファックスまたは E-Mailにてお送りください。

*掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願い致します。

*招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願い致します。

報道関係のお問い合わせ: 国立新美術館広報担当 石松、窪田 Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp